

複雑部品を生産

NKE、新型加工機導入

【京都】NKE（京都市伏見区、中村道一社長）は、独自の加工技術確立やモノづくり力強化を目的に本社工場を設備増強した。同社はエアチャックなどのパーツハンドリング機器や搬送機器を手がけるメーカーで、約2億円を投じて新型加工機を複数台導入。機器の機能や付加価値向上につながるが加工技術、コスト、納期といった観点で外部調達が難しかった複雑形状の部品などを自前生産し、部品レベルから製品競争力を高める狙い。

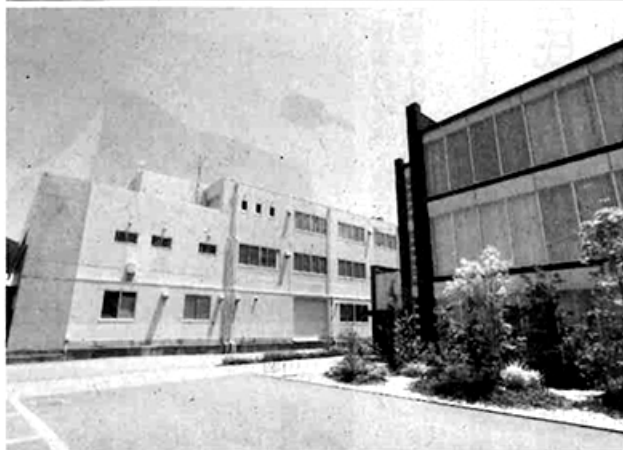
既存建物に多機能な品にもオリジナリティ5軸加工機、大型旋盤、高精度マシニングセンター（MC）、現場向け測定器、コンピュータ利用設計・製造（CAD/CAE）、ワイヤ放電加工機を導入した。独自の加工技術を高め、外部調達が難しいと判断していた部品を自前生産する。技術を磨き、部

品にもオリジナリティを訴求することで、自社製品の高付加価値化に加え、模倣の障壁にもなるとみている。NKEは多くの部品を外部調達している。今回の投資は、外部調達する部品の内製化とは毛色が異なり、新製品の開発加速や早期市場投入などが目的。また、自社製品は長

く使われることが多く、数十年前に納めた機器の部品交換ニーズも珍しくない。今回の設備増強では、国連の持続可能な開発目標（SDGs）などの観点からも、生産中止となった部品を自社で代

替生産して、部品を生産供給できる体制を整え、長く使ってもらいたいという目的もある。

同社は自動車部品や電池、電機、機械をはじめ、多様な業界向けの工場自動化機器・設備を手がけている。



本社工場に5軸加工機などを導入して加工技術を高める